

まつえし  
松江市

松江の未来のために今できること  
市民とともに地域の明日を創る

49  
LEADING COMPANY



1 新庁舎の2階に設けられた開放的なテラス。宍道湖を眼下に松江市の美しい景色が一望でき、職員の休憩スペースとしてはもちろん、誰でも気軽に利用できる 2 行政サービスを提供する新しい窓口は、デジタル技術を活用して、申請書に手書きで記入する必要を省くことができる「書かなくて済む窓口サービス」を導入 3 新庁舎4階、市長室前の展示ショーケースでは、松江市の特色ある特産物や工芸品、季節ごとの催しものなどを展示。展示内容は定期的に更新される 4 現在、試験的に行われているフリーアドレススペース。眺めの良い快適なスペースで作業ができる 5 市長と若手職員のランチミーティング中の一コマ 6 地域おこし協力隊のメンバーと打ち合わせ 7 2021年に松江市長に就任した上定昭仁市長。「市民一人一人が主役のまちづくり」をモットーに市政運営に取り組んでいる



新庁舎の完成とともに  
開かれた市役所を目指す

「攻めよりも守りの組織と思われているかもしれないが、未知の領域を能動的に創造する、最もクリエイティブな仕事」。上定昭仁松江市長は、松江市の役所の仕事をこう表現する。市役所の仕事と聞いて頭に浮かぶイメージは、戸籍や住民票の手続き、社会福祉の相談といった日々の窓口業務だが、それらは目に見える一部分。中長期的に捉えれば「松江市の未来を市民とともに創り上げる」という使命を担うと上定市長は語る。「未来、例えば100年後の松江市民のために、今の松江がどうあるべきかをみんなで考えなければならぬ。その最先端にいたいのが、私たち行政職員です」。市長がそう語る背景には、松江が抱える人口減少や、地域経済の停滞といったさまざまな問題がある。それらをふまえ、市民が安心して暮らせるまちづくりのため、2022年に松江市総合計画「MATSUE DREAMS 2030」を策定。「夢を実現できるまち 誇れるまち 松江」を新たなまちづくりの道標に、中心市街地の活性化や、地域資源を生かした観光振興、子育て支援の充実など、多岐にわたる施策を打ち出した。すでに、

子育て世代を対象としたDXの活用や、脱炭素化へ向けた堀川遊覧船の電動化などが実施され、持続可能なまちづくりの実現が積極的に進められている。

昨年度は、ホンモノの日本があるまち、と称して「MATSUE 観光戦略プラン」を策定。「松江は城下町の風情が残り、茶の湯文化が息づく美しいまち。私自身、県外や海外での暮らしを経て、松江の文化は世界に誇れると確信しました。この唯一無二の地域の魅力を、国内外に発信していきたい」と、本格的な誘客の促進を図る。

現在、松江市役所は2025年秋頃の完成に向けて新庁舎を建設中。それに伴い、職員の働きやすさを考えた「ハード面の整備」と「働き方改革」の両方に取り組んでいる。テレワークや時差勤務、業務のフリーアドレスなどを試験的にを行い、職員が柔軟に働ける環境づくりを試行する。

「新庁舎内にはコンビニやカフェも出店する予定です。行政手続きのための拠点というこれまでの概念を超えて、平日よりも土日の方が賑わうような開かれた市役所を創ろうとしています」。新庁舎の完成とともに、松江は大きく変わろうとしている。



松江市

事業内容

市民の皆さんが、安心・安全かつ安定的に生活を送るために必要な事業・施策の実施

創業 明治22 (1889) 年

代表者 松江市長 上定 昭仁

職員数 1802名 (男1002名 女800名)

本社 島根県松江市末次町86

電話 0852-55-5555

採用エリア (勤務地)

松江市

採用区分

新卒採用

キャリア採用

採用担当者からあなたへ

松江市は、世界に誇れる唯一無二の魅力あるまちです。松江の強みに磨きをかけ、安心して暮らすことのできるまち、夢の実現に向かって挑戦できるまちにできるよう、職員は日々業務に取り組んでいます。松江が好きだ！松江をもっと良くしたい！という想いのある方のご応募をお待ちしています！



総務部人事課  
I.Yさん

資料請求・お問い合わせ先

採用直通 TEL

0852-55-5130

採用直通 E-mail

jinji@city.matsue.lg.jp

公式サイトは  
こちら



求人サイトは  
こちら



松江市役所をもっと知りたい！

**Q.** 市役所の職員にはどんな職種があるの？

**A.** 仕事は、大きく「事務系（一般事務員）」と「技術系（専門職種）」に分かれます。割合的には大半が一般事務員で、窓口業務や市民からの各種相談、各部署での事務処理など、業務内容は多岐にわたります。技術系は、土木技術員、建築技術員、文化財専門職、保健師、化学職、獣医師、薬剤師、保育士などさまざまな職種があり、それぞれの専門知識を生かした業務を行っています。

**Q.** 人事異動はどのくらいのペースで行われる？

**A.** 概ね3～4年に1回、早い人だと2年で異動することもあります。事務職では税、福祉、産業、観光、文化、環境、教育など、市役所内のさまざまな部署への異動があります。また、市役所以外にも、市立病院や上下水道局といった松江市内の公営企業への異動もあります。

**Q.** 子育てしながらでも働けますか？

**A.** 産前産後休暇及び育児休暇については、女性職員は100%取得しています。また男性職員の育児休暇についても年々取得率が上がっており、2023年度は取得率が72%となりました。その他の福利厚生については、県や他の市町村と大きな差はありませんが、結婚休暇や介護休暇、看護休暇など、さまざまな休暇制度を設けており、仕事と家庭との両立がしやすい環境です。

**Q.** どんな人が向いていますか？

**A.** 市民の皆さんをはじめ、いろいろな方と接する仕事のため、しなやかな心を持ち、円滑にコミュニケーションがとれる人が向いています。また、松江市では「想像」と「創造」、2つのソウゾウ力を大切にしています。市民の皆さんが求めることを想像する力と、それを形にしていく創造力です。変化の激しい時代に対応するため、常に新しいアイデアを発想し、実行に移すことができる力を求めています。



**Q.** 新入職員に対する育成・サポート体制は？

**A.** 新入職員を対象とした各種研修のほか、新入職員が日々の業務を進める上で、職場の先輩が丁寧に指導を行う「指導担当者制度」を導入しています。また、採用後も一定年数が経過するごとに、職位に応じた研修機会を設けています。そして、職員が自発的にスキルアップを図ることができるよう、選択研修の機会もあわせて提供し、職員の人材育成に取り組んでいます。



安全で安心して暮らせるまちづくりで故郷に貢献したい

学生時代、橋や道路など公共施設の現場見学を通し、学んだ専門知識で地域に恩返しをしたいと考えたようになったというTさん。安全で安心して暮らせるまちづくりに取り組み、自分の生まれ育った松江に貢献したいと、市職員を志望した。

現在の仕事は、市内に約400か所ある公園の管理で、遊具の更新工事などの発注業務を担当。学生時代に学んだCAD操作や、プログラミングの知識が実際に生かしていると話す。「自分が手がけた遊具で楽しそうに遊ぶ子どもたちを見た時など、市民の皆さんに喜んでいただけたと実感した時に、

自分の仕事にやりがいを感じます」

20人ほどの部署内で、女性は現在2人。幅広い年齢層でアットホームな雰囲気があり、お互いが信頼できる関係性があると語る。休みの日には他部署の先輩や同僚、同期と女子会をしたり、趣味のバスケット観戦に出かけたりと、仕事もプライベートも満喫している様子。「公園の維持管理は、公園利用者はじめ、地域の方々の協力があってこそできていると常々感じています。周りの人への感謝の気持ちを忘れず、人と人がつながるコミュニケーションを大切にしていきたい」と、これからの思いを語った。



都市整備部 公園緑地課  
土木技術員 T.Yさん  
2019年入庁(6年目)



大好きな地域のためにできることを精一杯

Mさんは生まれも育ちも県外。両親が転勤で松江に住んでいたことがあり、小さい頃から何度も家族旅行で松江を訪れたという。「街並み、文化、海のきれいなさなど、松江のすべてが大好き。小学生の頃から、将来は絶対に松江に住むと決めていました」

大学では地方のまちづくりをテーマに学び、卒業後は晴れて松江市職員に。「本当に行くとはと、周囲に驚かれました」と笑う。2部署の異動を経て、現在は定住企業立地推進課に所属。主に移住や地域おこし協力隊の支援業務を担当している。大好きな松江市に貢献できることに喜びを感じ

つも、過去には希望とは異なる配属となり、落ち込むこともあった。しかし周囲のサポートや協力を得ることで、自分の仕事の意味ややりがいを見出すことができ、複数の業務経験を積むことで仕事の幅が広がっていくことに楽しさを感じるように。「市役所には多岐にわたる部署や業務があるので、多角的に松江を支えることができるのが魅力。単調な仕事が多いのかと思っていましたが、決してそんなことはありませんでした。異動はまるで転職のようで、仕事に飽きることもありませんよ」と、市役所職員の魅力を語る。



産業経済部 定住企業立地推進課  
一般事務員 M.Yさん  
2016年入庁(9年目)



日々勉強し、市民から信頼される技術員を目指す

市役所で建築技術員(電気)として従事するさん。市内の小中学校へのエアコンや無線LANの設置事業、国宝松江城や嫁ヶ島へのライトアップ設備の設置事業など、さまざまな現場の工事監理を行っている。「国宝松江城のような特別な場所を手がけられるのは、大変だけどやりがいを感じます」と話す。電気の建築技術員である一方で、他分野である機械設備や建築などの業務も行う。学生時代は主に電気工学を専攻し、建築の知識はなかったが、職場や現場の方に教わりながら学んできた。「建築面ではまだまだ知識不足。業者さんの方が詳しいこと

も多いです。技術者はある意味、退職するまでずっと勉強だなと感じています。もっと勉強して、松江市の電気の人といえどこの人だと言われるくらい、信頼される職員になりたい」  
プライベートではスポーツに音楽活動と多趣味なさん。スポーツではサッカー、バスケットからゴルフまで一通りのスポーツを嗜み、音楽活動ではクラブDJとしてイベントを盛り上げるという意外な一面も。「仕事は100パーセント頑張るって、オフの時には自分のやりたいことも楽しんでいます」と、ワークライフバランスを大切にしている。



財政部 公共建築課  
建築技術員 I.Hさん  
2016年入庁(9年目)

